

今週の焦点は、**米国**は、住宅関連(24日の中古住宅販売、25日の住宅価格、26日の新築住宅販売)と、28日の個人消費、**日本**は、4月1日の日銀短観を控え、24日の法人企業景気予測調査、28日の消費者物価、日銀総裁人事(4月11日はG7)、**ユーロ圏**は、26日のトリシェECB総裁証言です。米国の政策総動員で株価は下げ止まりましたが、先行きは依然不透明です。

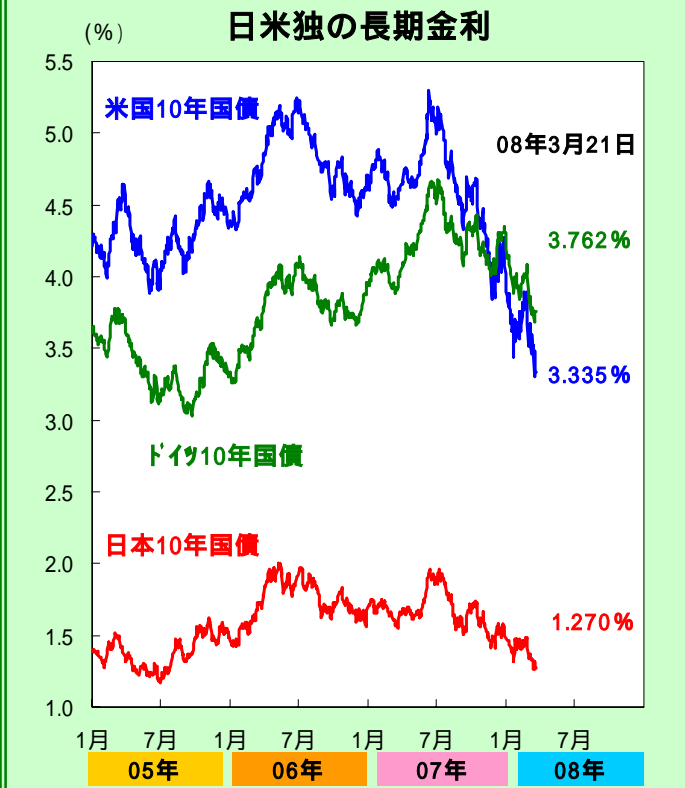


今週の株式市場見通し:

出所) Bloomberg

日本 米国株反発で日経平均株価も3月17日の11787円で下げ止まるが上値重い見通し。

米国 断続利下げと、金融システム不安解消を目指した資金供給が好感され、株価は下げ止まったものの、反発力には乏しい見込み。

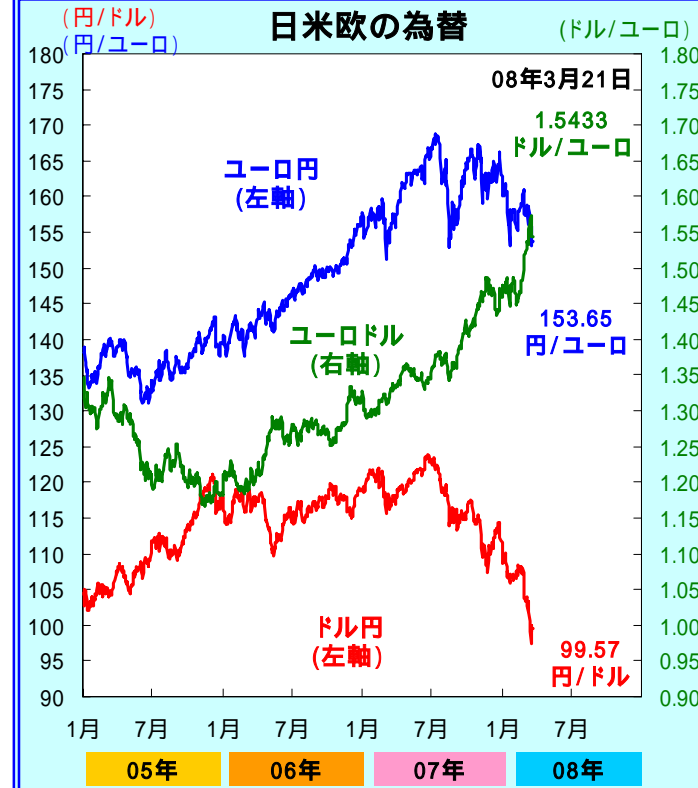


今週の債券市場見通し:

出所) Bloomberg

日本 海外金利の低下と、国内景気の減速懸念から、国内金利も低下地合いでしょう。

米国 株安に歯止めがかかり、金利も下げ止まったが、質への逃避・景気後退懸念・追加利下げ観測で、金利低下基調は継続へ。



今週の為替市場見通し:

出所) Bloomberg

ドル円 株安に伴う円借り取引の巻き戻しで、円高進行の余地は若干残る見通し。

ユーロ 欧米金利差を映し、ユーロ高ドル安が見込まれるが、今週26日のトリシェECB総裁がユーロ高を牽制する可能性にも要注意。